

国際的に有名なアバンギャルドなアーティスト、岡本太郎（1911-1996）は、野沢温泉をしばしば訪れていました。彼は若い頃の大部分をパリで過ごし、特にパブロ・ピカソの絵に触発されて抽象画を描き始めます。岡本の最も有名な作品は、大阪万博（1970）のために制作し、多くの人に影響を与えた巨大な「太陽の塔」（1970）です。この塔は人類の過去、現在、未来を象徴しており、日本における有名なパブリックアートの1つです。

1974年、岡本は、野沢温泉村がオーストリアのサンクト・アントンの姉妹都市となることを記念する、大きな記念碑の制作を任されました。この作品は、1972年冬季オリンピック札幌大会のために彼が以前デザインした公式記念メダルを模しており、プロスキーヤー、ハネス・シュナイダーのブロンズ像の隣に設置したものです。シュナイダーは現代スキーをこの村で普及させた第一人者なのです。岡本はこの記念碑の落成式典に出席した際、自分がこの静かな小村に愛着を感じているのに気付き、冬期に定期的に訪れるようになります。彼はスキーに興じ、温泉で癒され、道祖神火祭りを楽しみました。岡本は地元の人に愛され、1991年には村の最初の名誉村民に選出されます。野沢温泉の通りを散策すると、岡本太郎の作品やデザインをあちこちで目にするでしょう。例えば、村の観光協会は彼の手書きの「湯」という文字をイメージロゴとして使っていますが、このロゴは村の温泉文化を非常によく表しています。